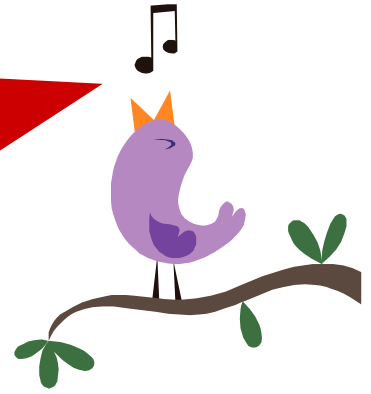


ふらり らいふらりい



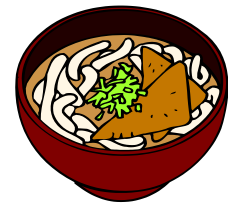
～図書室にはこんな本があります～

No. 171

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 戦前～戦中の食堂メニューにはどのようなものがあったのか、また当時の食堂風景の写真を
見たい。

答) 「食堂」をキーワードとして、**ことば**で検索します。
図書 → **ことば** → **食堂** (273件該当)



食堂メニューの一例が載っている本

『物価の文化史事典』(337/Mo57) 開架書棚 [参考]

『近代日本食文化年表』(383.8/Ki42) 開架書棚 [参考]

『株式会社阪急百貨店25年史』(673/H29) 閉架書庫

『東京名物食べある記』(596.2/J49) 閉架書庫

…昭和4年発行。当時の有名食堂等の批評が、お店ごとに掲載されています。

食堂の写真

『写真でみる日本生活図引 7』(382.1/Su14/7) 閉架書庫

『昭和日本史 13』(210.7/Sh97/13) 開架書棚

※本に載っている写真は、**ことば**検索でヒットしないものが多いです。閲覧室に写真集を
集めた書棚がありますので、そちらも直接ご覧になって調べてみてください。

『桑原甲子雄写真展』(291/Ku95) 開架書棚 [写真集]

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。



毎年9月24日～30日は結核予防週間です



結核予防週間とは、昭和24年(1949)から実施されており、結核についての正しい知識を普及し、これからの活動を考える期間です。結核は50年前までは死亡原因の第1位でした。当時、一般家庭では結核にかかったら、休養につとめるというのが主な治療方法でした。

…家庭での療養の際は、一般向けに出版された家庭療養書などを頼りに…日々の看護を行った。…通称「赤本」と呼ばれた家庭医学書『家庭に於ける实际的看護の秘訣』は「一家に一冊」といわれたほどの人気で、昭和初期の日本の家庭に常備されていた。…結核が「死の病」として恐れられた時代において、赤本は庶民の強い味方であった。なお、この赤本は大正十四(一九二五)年の発行以来、現在まで版を重ね続け、今や一六一七版、発行部数一〇〇〇万部を超える大ベストセラーとなっている。

『家で病気を治した時代』 598 / Ko38 開架

家庭医学書のバイブルでもあった「赤本」、その中から結核についての記述を抜粋します。

『「結核」と聞いても「あわて」なさんな、…刃向かって戦えば人間が勝って必ず病気は治るのです』

『…このばい菌は直接日光に当たると僅かの間に死滅する』

『…私の知人に一年間海で釣りをして、重い肺病(結核)を全治した人があります』

『鰻の生血やキモをそのまま飲む事は実験上すこぶる有効である事を確かめました』

※旧漢字・旧仮名づかいは改めました。

有効な治療法がなかった時代においては、上記のような民間療法に頼らざるを得ませんでした。この赤本内には「結核は死病というほど恐るる病気ではない」という旨の記述が何回かあります。逆に言えば、当時の人々にとって結核はそれくらい死に直結する恐ろしい病気だったということがわかります。赤本には、そのような病に立ち向かっていこうとする著者の思いを感じる事ができます。

このような人間の自然治癒能力にはたらきかける「自然療法」は、化学療法が広まる昭和30年(1955)前後まで、長く結核の療養方法の中心であり続けたのです。

参考図書

公益財団法人結核予防会 「結核の常識」ホームページ

家で病気を治した時代 598 / Ko38 開架

結核の歴史 493 / A53 閉架

实际的看護の秘訣 598.4 / Ts67 閉架

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 171

2014年9月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1